

The slide features a blue header with a circular pattern on the left and the IBM logo on the right. Below the header, the text 'IBM Software Group | Rational software' is centered. The main title 'IBM® Rational® ClearQuest®' is prominently displayed, followed by the Japanese subtitle 'ClearQuest レコードのインポートについて'. A horizontal bar with various icons is positioned below the title. The footer contains the '@business on demand.' logo, copyright information '© 2007 IBM Corporation', and the date 'Updated September 4, 2007'.

IBM

IBM Software Group | Rational software

IBM® Rational® ClearQuest®

ClearQuest レコードのインポートについて

Rational software

@business on demand.

© 2007 IBM Corporation
Updated September 4, 2007

このモジュールでは、IBM Rational ClearQuest にレコードをインポートする方法について説明します。

モジュールの内容

- **モジュールの内容:**
 - ▶ インポートの順序
 - ▶ 元のIDの保存
 - ▶ 添付、履歴レコードのインポート
 - ▶ 親・子 関係レコードのインポート
 - ▶ Defect レコードのインポート
 - ▶ 重複 (duplicates)レコードのインポート

- **このモジュールで習得できること:**
 - ▶ どのレコードをインポートすればよいかの手順が理解できる
 - ▶ 元のレコードIDの保存が必要な理由を理解できる
 - ▶ 基本レコードと関連レコードをインポートする方法が理解できる



IBM Rational ClearQuest では、他のClearQuestデータベース、または他のデータ元からデータをインポートするためのツールを提供しています。

このモジュールでは、スキーマデザインに関する知識が既にあること、ClearQuest 7.0 以降のバージョンを使用することを前提として説明します。

また、ClearQuestデータベースからエクスポートしたファイルか、同様の形式で作成されたインポートファイルが既に用意されていることを前提とします。インポートファイルの形式に関しては、オンラインヘルプの "Rational ClearQuestインポートファイルの作成" を参照ください。

他のClearQuestデータベースからデータをインポートする場合には、エクスポートの際に、「ClearQuest インポート形式」指定すると、正しい形式でファイルが作成されます。ClearQuestデータベース以外からデータをインポートする場合には、ファイルを正しい形式に変更する必要があるかもしれません。

このモジュールでは、「インポートの順序」、「元のIDの保存」、「添付または履歴レコードのインポート」、「親子関係を持つレコードのインポート」、「Defect レコードのインポート」、「重複レコードのインポート」などのClearQuest レコードのインポート方法について説明します。

インポート順

- **一番低いレベルで参照されているレコードを最初にインポート**
 - ▶ レコードタイプ1がレコードタイプ2を参照し、レコードタイプ2がレコードタイプ3を参照している場合、インポートの順は：
 - レコードタイプ3
 - レコードタイプ2
 - レコードタイプ1
- **他のスキーマリポジトリに属するデータベースにレコードをインポートする場合、ユーザー情報を最初にインポート**
 - ▶ レコードをインポートする前に、ユーザー管理のエクスポート機能を使用して(ユーティリティ > エクスポート)ユーザーをエクスポート
 - ▶ ユーザー情報のインポートはClearQuestユーザー管理でのみ可能



ClearQuest にレコードをインポートする際には、該当のスキーマを熟知していることが重要です。インポートしようとしているレコードタイプから始めて、“reference” や “reference_list” フィールドで参照されているレコードタイプのリストを作成します。
”状態あり”レコードタイプが参照されている場合については、このモジュールの後の方で説明します。

また、選択リストフックで選択リストが他のレコードタイプから作成されていないかを確認し、あれば参照されているレコードタイプのリストに追加します。さらに、参照されているレコードタイプから参照している他のレコードタイプがあれば、それもリストに追加します。

作成されたリストの一番下のレベルから順にインポートします。この例のように、もしレコードタイプ1がレコードタイプ2を参照し、レコードタイプ2がレコードタイプ3を参照している場合、インポートの順番は最初にレコードタイプ3、そしてレコードタイプ2、最後にレコードタイプ1となります。

また、他のスキーマリポジトリに属するデータベースにレコードをインポートする場合で、インポートするレコードが Users を参照している場合には、最初にユーザー情報をインポートする必要があります。レコードをインポートする前に必ず、ユーザー管理のエクスポート機能(ユーティリティ > エクスポート)を使用して、ユーザーをエクスポートします。

ユーザー情報のインポートには、ClearQuest ユーザー管理を使用します。

元のIDの保存

- インポートを計画しているレコードが以下に関連するレコードを含む場合には、元のIDの保存が必要
 - ▶ 履歴 (History)
 - ▶ 添付 (Attachments)
 - ▶ 重複 (Duplicates)
 - ▶ 元のデータベースからの更新データ
 - ▶ 同じレコードタイプ間で関連を行うための参照フィールドがある場合



“状態あり” レコードが ClearQuest で作成される時、レコードの ID は、論理データベース名と連番で形成されます。

履歴レコードと添付ファイルはこのレコード ID で関連づけられています。

“状態あり” レコードをインポートすると、インポート先でレコードに新たな ID が割り与えられます。論理データベース名が違うため、新しい ID は変わります。もし、論理データベース名が同じでも、連番が異なってきます。そのため、履歴、添付、重複レコードをインポートする場合や、後で、元のデータベースからの更新データのインポートを行う予定がある場合には、レコードをインポート時に元のIDを保存することが必要になってきます。

セクション

レコードのインポート



ここからのスライドでは、ClearQuest を使用してのインポートについて説明します。

ClearQuest インポートの例

- 「状態なし」レコードのインポート
- 「状態あり」レコードのインポート
- 「状態あり」レコードと関連するレコードのインポート
 - ▶ 履歴 (History)
 - ▶ 添付 (Attachments)
- 「状態あり」レコードを参照する「状態あり」レコードのインポート
- 重複情報のインポート



ClearQuest 7.0のインポートで必要となり得る、インポートに関するほとんどの例が、ここに示されています。以前のClearQuest バージョンでは “状態あり” レコードを参照している “状態あり” レコードをインポートすることはできませんでした。これは、ClearQuest 7.0以降で改善されています。

ClearQuest のインポートツールでは、元のIDが保存されたフィールドを選ぶことができますのでレコードを対応させることができます。

ClearQuestでは、“状態なし” レコード、“状態あり” レコード、履歴、添付などの “状態あり” レコードと関連するレコード、“状態あり” レコードを参照する “状態あり” レコード、重複情報をインポートすることが可能です。

ClearQuest インポートの例（続き）

- DefectTracking スキーマを基に作成された ClearQuestのサンプルデータベースのインポート
- Defectレコードは「状態あり」レコードで、以下の「状態なし」レコードを参照している
 - ▶ 顧客 (Customer)
 - ▶ プロジェクト (Project)
 - ▶ ユーザー (Users)
- 参照フィールド、Related_records は他の Defect レコードを参照している



この例では、ClearQuest の DefectTracking スキーマを基に作成されたサンプルデータベースからエクスポートしたデータを使用します。この場合、顧客、プロジェクト、ユーザーのレコードを、まずインポートします。

ユーザーをインポートする場合は、インポートツールではなく、ClearQuest ユーザ管理を使用します。これは、データをインポートするデータベースが他のスキーマリポジトリに属している場合にのみ必要となります。

また、参照フィールドで他のDefect レコードを関連付けられるようになっているとします。

ClearQuest インポートの例（続き）

- 顧客(customer)レコードに逆参照フィールド“Parent_defects”があり、defectレコードを逆参照している
- “SAMPL00000043”は“SAMPL00000044”を“related_records”フィールドで参照している
- Defect レコードに逆参照フィールド“parent_records”がある。この例では“SAMPL00000043”が親レコード。
- “SAMPL00000006”は添付ファイルを持っている
- “SAMPL00000041”は“SAMPL00000042”の重複



さらに例として、顧客(Customer)レコードに“Parent_defects”とdefectレコードを逆参照している逆参照フィールドがあるとします。その他にもここにあるようにいろいろな関係が存在するとします。

次のステップ

- 次からのスライドで、以下の順序でレコードをインポート：
 - ▶ 顧客 (Customer)
 - ▶ プロジェクト (Project)
 - ▶ 障害 (Defects)



インポートするレコードのタイプについて、いろいろ例を見てきましたが、次からは実際のインポートを行います。これからのスライドでは、レコードは、顧客レコード、プロジェクトレコード、障害レコードの順でインポートされます。

ここでは、インポートする順序はあまり関係ありません。この3つのレコードタイプは、互いに参照していないからです。

状態なしレコードのインポート

- 状態ありレコードのインポート
 - ▶ インポート元のデータベースで使用されている ID とインポート先でのレコードの ID を一致させることはできない
 - ▶ ID はシステムフィールドであり、上書きはできない
- 最初に状態なしレコードをインポート
 - ▶ 状態なしレコードの一意的キーはインポート先でも同じなので元の ID を保存する必要なし



状態ありレコードをインポートする時、インポート元のデータベースで使用されているレコードIDとインポート先のレコードIDを一致させることはできません。なぜならば、IDはシステムフィールドであるからです。インポートツールのフィールドマッピング画面で、右側にあるインポート元のフィールドと左側にあるインポート先のフィールドをマップすると、インポート元のフィールドの値をインポート先フィールドに使用するということとなりますが、IDフィールドはマップすることができません。そのため、元のIDを保存するフィールドを確保する必要があります。

状態なしレコードでは、ClearQuestはシステムフィールドをIDに使用しません。“一意のキー”を指定することができ、それを上書きすることもできます。状態ありレコードのようなIDを使用しないので、元のIDを保存する必要はありません。

顧客(customer)レコードのインポート:

レコードタイプ
を選択

レコード
データの
インポート

ClearQuest インポートツール - ステップ 1/5

インポートするデータに関する情報を提供してください。

ステップ 1
インポート先のレコードタイプを選択してください。

レコードタイプ(B): Customer

ステップ 2
インポートするデータのタイプを指定してください。 適応するすべてのタイプを選択します。

レコードデータ(D)
 履歴(H)
 添付ファイル(A)

ステップ 3
既存のデータレコードに対する更新情報を ClearQuest ユーザー データベースにインポートしますか?

はい(Y)
 いいえ(N)

<戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

インポートツールの最初のステップでは、インポートするため情報を提供します。
この例では、顧客レコードをインポートに使用しますが他の状態なしレコードでも同じです。

レコードタイプを選択して、どのデータをインポートするかを選び、そして既存のデータ更新情報
をインポートするかどうかを選択します。
次へ をクリックします。

顧客(customer)レコードのインポート: (続き)

“入力ファイル名”
と“破棄データの
ログ”の場所を
選択

インポートするデータタイプごとに次のパラメータを指定してください。

入力ファイルはインポートするデータを ClearQuest のインポート形式で格納します。
破棄データファイルには、インポートが成功しなかったレコードが格納されます。
フィールド区切り文字は、入力ファイル内のフィールドと値を区切るための区切り文字です。

レコードデータ

入力ファイル名(D): C:\TEMP\Export_test\Customer\Customer_duplicates.txt 参照(O)

破棄データのログ(D): C:\TEMP\Export_test\Customer\Customer_duplicates_discard.txt 参照(O)

フィールド区切り文字(D):

履歴データ

入力ファイル名(D): 参照(O)

破棄データのログ(D): 参照(O)

フィールド区切り文字(D):

添付データ

入力ファイル名(D): 参照(O)

破棄データのログ(D): 参照(O)

フィールド区切り文字(D):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

次のステップでは、インポートするデータタイプに対する設定を選択します。

インポートが失敗したレコードを格納するために、“破棄データのログ”を指定します。“破棄データのログ”のファイルを修正して、失敗したレコードだけを再度インポートすることができます。“入力ファイル名”と“破棄データのログ”のファイル名を選択して、“フィールド区切り文字”を選びます。

そして、**次へ**をクリックします。

顧客(customer)レコードのインポート: (続き)

Quest インポート ツール - ステップ 3/5

データ入力ファイル内に格納されている情報の種類を指定してください。

状態値のインポート
レコード データ入力ファイルに状態値があり、それらの値をインポートする場合、そのファイル内のこの値を含むフィールド列を指定してください。
状態フィールド列(S):

重複のインポート
 レコード データ入力ファイル内で重複とマークされているレコードをインポートする
レコード データ入力ファイル内の親識別子を含むフィールド列を指定してください。
重複 ID フィールド列(D):

レコード更新情報、重複、履歴、または添付ファイルのインポート
重複、履歴、添付ファイル、レコード更新を ClearQuest ユーザー データベースにインポートする場合、別の入力ファイルに保存されているレコード、履歴、添付ファイルをリンクするための固有識別子が各データ入力ファイルに含まれている必要があります。この固有識別子を含む ClearQuest フィールド名を指定してください。
ClearQuest フィールド名(N):

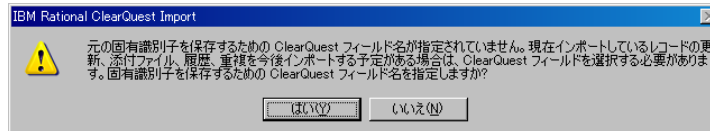
< 戻る(B) 次へ > 終了 ヘルプ

ステップ3/5では、インポートするデータファイルの情報を選択します。

状態なしレコードでは状態と重複がないので、“状態フィールド”および重複の指定を行いません。既存のレコードの上書きインポートの場合、一意のキーフィールドを、ClearQuest フィールド名として指定する必要がありますが、新規インポートの場合、このフィールドの指定は不要です。

次へ をクリックします。

顧客(customer)レコードのインポート: (続き)



固有識別子を保存するためのClearQuest フィールドを指定しないと、このような警告メッセージが出力されます。
いいえ を選びます。

顧客(customer)レコードのインポート: (続き)

ClearQuest インポート ツール - ステップ 4/5

データ入力ファイルとレコードタイプの ClearQuest フィールド間のマッピング情報を入力してください。
現在のマッピング: レコード データ

インポート先のフィールドラベル	インポート先のデータタイプ	インポート元のフィールドラベル	参照されたレコードの
Attachment	ATTACHMENT_LIST		
CallTrackingID	SHORT_STRING		
Company	SHORT_STRING		
Description	MULTILINE_STRING		
Email	SHORT_STRING		
Fax	SHORT_STRING		
Name	SHORT_STRING		
Phone	SHORT_STRING		

ロード(L)... 保存(S)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

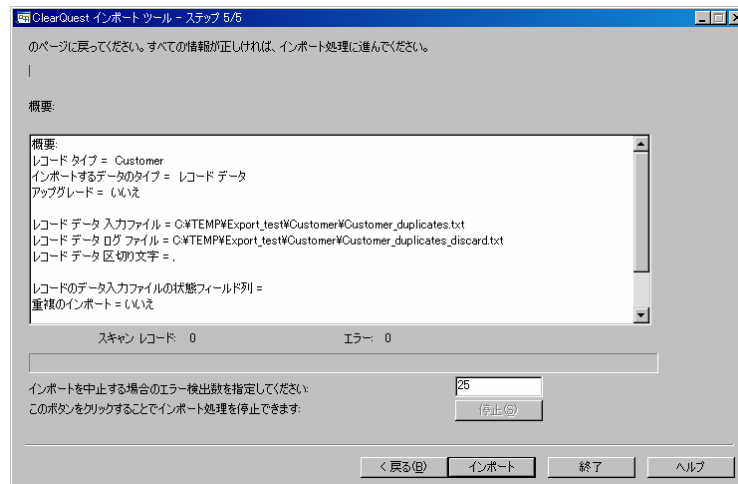
15 © 2007 IBM Corporation

ステップ4/5では、“インポート先のフィールド”と“インポート元のフィールド”のマッピングを選択します。

正しく、フィールドをマップすることはインポートの成功のためにとっても重要です。同じスキーマを使用した ClearQuest データベースからデータをエクスポートした場合には、フィールドラベルは同じなので、フィールドは自動的にマップされます。

もしスキーマが同じフィールドラベルを持っていない場合、“インポート先のフィールド”に対応する“インポート元のフィールド”を選択します。すべてのフィールドが正しくマップされていることを確認しましたら、次へ をクリックします。

顧客(customer)レコードのインポート: (続き)



最後のステップでは、入力した情報の一覧が表示されます。この情報が正しいかを確認します。何件のエラーが検出されたらインポートを停止するかを指定することができます。デフォルトでは25ですが、変更可能です。**インポート**をクリックします。

顧客レコードにレコードがインポートされます。プロジェクトレコードも同様にインポートします。他の状態なしレコードも同様のインポート方法となります。

セクション

障害 (defect) レコードのインポート



このセクションでは、ClearQuestでの障害 (defect) レコードのインポート方法を説明します。

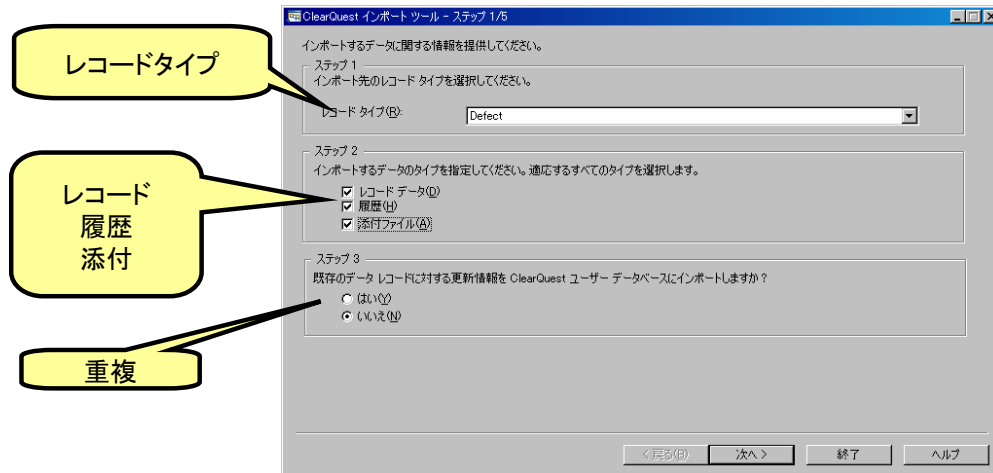
障害 (defect) のインポート

- インポート ウィザードの使用
- レコードのインポート
- 添付 (attachments) のインポート
- 履歴 (history) のインポート
- 重複 (duplicates) のインポート



このセクションでは、インポートウィザードを使用して障害 (defect) レコードのインポートをします。レコード、添付ファイル、履歴レコードおよび重複情報のインポートの例を紹介します。

障害 (defect) のインポート



インポートツールの最初のステップでは、インポートの情報を指定します。
状態ありレコード、関連する履歴、添付レコードを同時にインポートすることができます。

レコードタイプとして Defect を選択し、インポートするデータのタイプを指定します。この例では、
全ての3つのオプションが選ばれています。
初めてレコードをインポートする時には、更新情報は "いいえ" を選びます。
次へ をクリックします。

障害 (defect) のインポート: (続き)

インポートするデータタイプごとのパラメータを指定してください。

入力ファイルはインポートするデータを ClearQuest のインポート形式で格納します。
破棄データファイルには、インポートが成功しなかったレコードが格納されます。
フィールド区切り文字は、入力ファイル内のフィールドと値を区切るための区切り文字です。

レコードデータ

レコードデータ
 入力ファイル名(Q): C:\TEMP\Export_test\parents\records.txt 参照(1)...
 破棄データのログ(D): C:\TEMP\Export_test\parents\records_discard.txt 参照(2)...
 フィールド区切り文字(F):

履歴データ

履歴データ
 入力ファイル名(Q): C:\TEMP\Export_test\parents\dupicates.txt 参照(3)...
 破棄データのログ(D): C:\TEMP\Export_test\parents\test_dupicates_discard.txt 参照(4)...
 フィールド区切り文字(F):

添付データ

添付データ
 入力ファイル名(Q): C:\TEMP\Export_test\parents\attachments.txt 参照(5)...
 破棄データのログ(D): C:\TEMP\Export_test\parents\attachments_discard.txt 参照(6)...
 フィールド区切り文字(F):

<戻る(B) 次へ> 終了 ヘルプ



ステップ2/5では、インポートするデータタイプに対する設定を選択します。

それぞれのデータについて、入力ファイル名、“破棄データのログ”、“フィールドの区切り文字”の全てを指定する必要があります。

インポートが失敗したレコードのために、“破棄データのログ”を指定します。“破棄データのログ”ファイルを修正をして、失敗したレコードだけを再度インポートすることができます。

“フィールド区切り文字”はインポートファイルのフィールドを区切る文字です。“フィールド区切り文字”として使用できる文字は、コンマ、セミコロン、パイプ、タブです。

レコードデータ、履歴データ、添付データの、それぞれの設定が終わったら、次へ をクリックします。

障害(defect)のインポート:(続き)

ClearQuest インポート ツール - ステップ 3/5

データファイル内に格納されている情報の種類を指定してください。

状態値のインポート
レコード データ入力ファイルに状態値があり、それらの値をインポートする場合、そのファイル内のこの値を含むフィールド名を指定してください。

状態フィールド名(S): State

重複のインポート
 レコード データ入力ファイル内で重複とマークされているレコードをインポートする
レコード データ入力ファイル内の親識別子を含むフィールド名を指定してください。

重複 ID フィールド名(D):

レコード更新情報、重複、履歴、または添付ファイルのインポート
重複、履歴、添付ファイル、レコード更新を ClearQuest ユーザー データベースにインポートする場合、別の入力ファイルに保存されているレコード、履歴、添付ファイルをリンクするための固有識別子が各データ入力ファイルに含まれている必要があります。この固有識別子を含む ClearQuest フィールド名を指定してください。

ClearQuest フィールド名(N): 元ID

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

ステップ3/5では、インポートするデータファイルの情報を選択します。

インポートのレコードで状態を含んでいるフィールドを選択します。この例では、障害(defect)レコードの“State”フィールドが状態フィールドです。

重複のオプションは選択しません。重複レコードは別にインポートする必要があります。

レコードの更新情報のフィールド名を指定します。ここでは、レコードの元のIDを保存するフィールドを指定します。それにより履歴(history)、添付(attachments)、重複(duplicates)と既存レコードの更新インポートが可能になります。

また、そのレコードタイプ自体を参照しているフィールドが存在している場合は、必ず元のIDを指定する必要があります。たとえば、Defect レコードタイプ間で親子関係がある場合などです。

適切な値を選び、**次へ** をクリックします。

障害 (defect) のインポート: (続き)

インポート先のフィールド ラベル	インポート先のデータ タイプ	インポート元のフィールド ラベル	参照されたレコード
7 esig_login	SHORT_STRING		
8 esig_password	SHORT_STRING		
9 esig_signed_for_delete	INT		
10 Headline	SHORT_STRING	Headline	
11 Keywords	MULTILINE_STRING		
12 Note_Entry	MULTILINE_STRING		
13 Notes_Log	MULTILINE_STRING		
14 old_id	SHORT_STRING	ID	
15 Owner	REFERENCE		
16 Priority	SHORT_STRING		
17 Project	REFERENCE		
18 Resolution	SHORT_STRING		
19 Severity	SHORT_STRING		
20 Submit_Date	DATE_TIME		
21 Submitter	REFERENCE		
22 Symptoms	MULTILINE_STRING		
23 test_dataTime	DATE_TIME		

ステップ4/5では、“インポート先のフィールド”と“インポート元のフィールド”のマッピングを選択します。

“インポート先のフィールド”の“old_id”または元のIDの格納用に作成したフィールドに対応する“インポート元のフィールド”として“ID”を指定します。

障害 (defect) のインポート: (続き)

ClearQuest インポート ツール - ステップ 4/5

データ入力ファイルとレコード タイプの ClearQuest フィールド間のマッピング情報を入力してください。
現在のマッピング: レコード データ

インポート先のデータタイプ	インポート元のフィールド	ラベル	参照されたレコードの元の ID
1 ATTACHMENT_LIST	Attachments		
2 REFERENCE_LIST	customer		
3 SHORT STRING	customer_severity		
4 MULTILINE STRING	Description		
5 SHORT STRING	Headline		
6 MULTILINE STRING	Keywords		
7 MULTILINE STRING	Note_Entry		
8 MULTILINE STRING	Notes_Log		
9 SHORT STRING	old_id		
10 REFERENCE	Owner		
11 SHORT STRING	Priority		
12 REFERENCE	Project		
13 REFERENCE	related_records	old_id	
14 SHORT STRING	Resolution		
15 SHORT STRING	Severity		
16 DATE_TIME	Submit_Date		
17 REFERENCE	Submitter		

ロード(L)... 保存(S)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

参照されたレコードの元のID



状態ありレコードタイプを参照している “reference_list” や “reference” フィールドでは、参照先のレコードタイプのどのフィールドに元のIDが保存されているかを指定します。

障害 (defect) の履歴のインポート

インポート先のフィールド ラベル	インポート先のデータ タイプ	インポート元のフィールド ラベル	参照されたレコードの
action_name	SHORT_STRING	action_name	
action_timestamp	DATE_TIME	action_timestamp	
comments	SHORT_STRING	comments	
new_state	SHORT_STRING	new_state	
old_id	SHORT_STRING	display_name	
old_state	SHORT_STRING	old_state	
user_name	SHORT_STRING	user_name	

障害(Defect)の履歴レコードのインポートでは、“インポート元のフィールド”の“display_name”と“インポート先のフィールド”の“old_id”をマップします。“display_name”は履歴が関連付けられている元のIDを保有しています。

障害 (defect) の添付 (attachments) のインポート

ClearQuest インポート ツール - ステップ 4/5

入力ファイルとレコード タイプの ClearQuest フィールド間のマッピング情報を入力してください。
添付データのマッピング: 添付データ

インポート先のフィールド ラベル	インポート先のデータ タイプ	インポート元のフィールド ラベル
Attachments	ATTACHMENT LIST	Attachments
description	SHORT_STRING	description
old_id	SHORT_STRING	display_name

old_id

display_name

ロード(L)... 保存(S)...

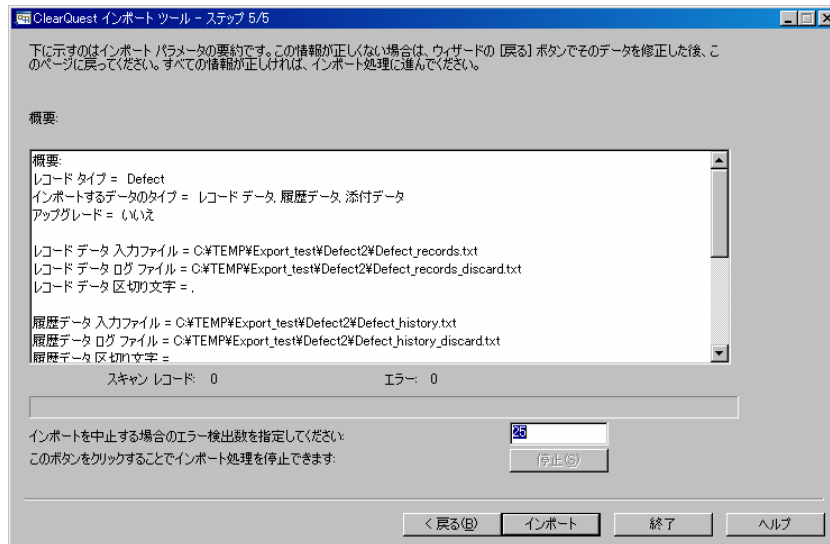
<戻る(B) 次へ(N)> キャンセル ヘルプ

Importing records into ClearQuest

25 © 2007 IBM Corporation

障害(Defect)の添付のインポートでは、“インポート元のフィールド”の“display_name”と“インポート先のフィールド”の“old_id”をマップします。
マッピングが終了したら、次へをクリックします。

障害 (defect) のインポート: (続き)



最後のステップでは、入力した情報の一覧が表示されます。この情報が正しいかを確認します。何件のエラーが検出されたらインポートを停止するかを指定して、**インポート** をクリックします。

セクション

重複 (duplicates) のインポート



このセクションでは、重複 (duplicates) のインポートを紹介します。

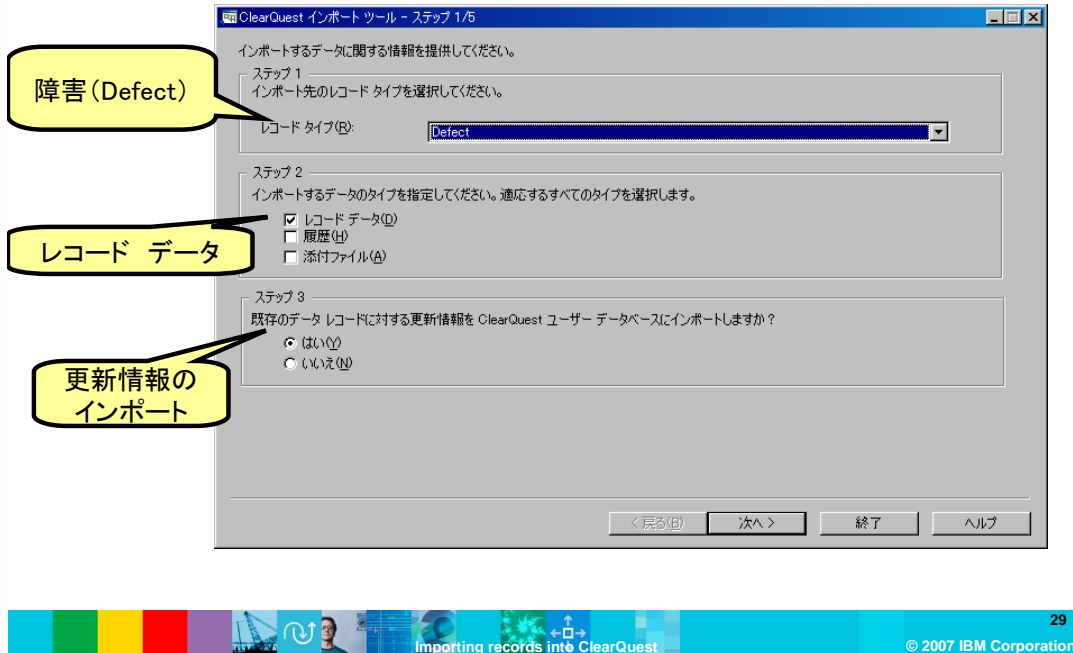
重複 (Duplicates)

- レコードをインポート後に、重複(duplicate)をインポート
例) 障害 (defect)レコードをインポートしてから重複 (duplicates)をインポート



最後に、重複情報のインポートを行います。基本のレコードをインポートした後に、重複情報をインポートします。

重複 (Duplicates)



インポートツールの最初のステップでは、インポートするための情報を選択します。

レコードタイプとしてDefect、そしてインポートするデータのタイプを指定します。ここでは、レコードデータのみを選びます。

今回は重複情報をインポートするので、ステップ3の”更新情報のインポート”で“はい”を選択します。

次へ をクリックします。

重複 (Duplicates)

重複 (duplicates)
ファイルの選択

インポートするデータタイプごとに次のパラメータを指定してください。

入力ファイルはインポートするデータを ClearQuest のインポート形式で格納します。
破棄データファイルは、インポートが成功しなかったレコードが格納されます。
フィールド区切り文字は、入力ファイル内のフィールドと値を区切るための区切り文字です。

レコードデータ

入力ファイル名(D): C:\TEMP\Export_test\Defect2\Defect_duplicates.txt 参照(1)...

破棄データのログ(D): C:\TEMP\Export_test\Defect2\Defect_duplicates_discard.txt 参照(2)...

フィールド区切り文字(E): .

履歴データ

入力ファイル名(D): C:\TEMP\Export_test\Defect2\Defect_history.txt 参照(3)...

破棄データのログ(D): C:\TEMP\Export_test\Defect2\Defect_history_discard.txt 参照(4)...

フィールド区切り文字(E):

添付データ

入力ファイル名(D): C:\TEMP\Export_test\Defect2\Defect_attachments.txt 参照(5)...

破棄データのログ(D): C:\TEMP\Export_test\Defect2\Defect_attachments_discard.txt 参照(6)...

フィールド区切り文字(E):

<戻る(B) 次へ > 終了 ヘルプ

ステップ2/5では、インポートするデータタイプに対する設定を選択します。
重複情報を含むファイル duplicatesファイルを選択します。インポートが失敗した時のための、
“破棄データのログ”と”フィールドの区切り文字”も指定します。
次へ をクリックします。

重複 (Duplicates)

ClearQuest インポート ツール - ステップ 3/5

データファイル内に格納されている情報の種類を指定してください。

状態フィールドのインポート
レコード データ入力ファイル内に状態値があり、それらの値をインポートする場合、そのファイル内のこの値を含むフィールド列を指定してください。
状態フィールド列(S): oldstate

重複のインポート
 レコード データ入力ファイル内で重複とマークされているレコードをインポートする
レコード データ入力ファイル内の親識別子を含むフィールド列を指定してください。
重複 ID フィールド列(D): id

レコード更新情報、重複、履歴、または添付ファイルのインポート
重複、履歴、添付ファイル、レコード更新を ClearQuest ユーザー データベースにインポートする場合、別の入力ファイルに保存されているレコード、履歴、添付ファイルをリンクするための固有識別子が各データ入力ファイルに含まれている必要があります。この固有識別子を含む ClearQuest フィールド名を指定してください。
ClearQuest フィールド名(N): old_id

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

ステップ3/5では、インポートするデータファイルの情報を選択します。

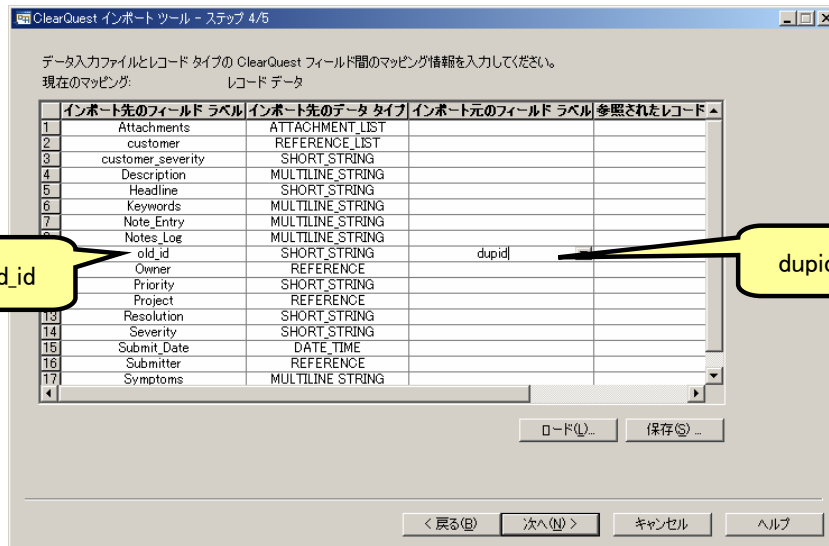
“状態フィールド列” ではoldstate を選択します。

“重複のインポート” では “id” を指定します。

“レコードの更新情報のフィールド名”では”old_id”を指定します。

選択が終わりましたら、**次へ** をクリックします。

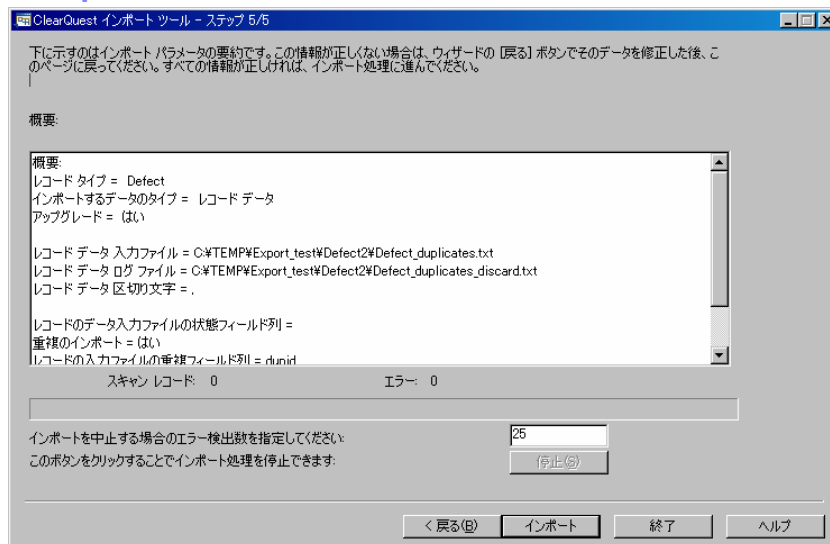
重複 (Duplicates)



ステップ4/5では、“インポート先のフィールド”と“インポート元のフィールド”のマッピングを選択します。

“インポート元のフィールド”の“dupid” と “インポート先のフィールド”の“old_id”をマップします。

重複 (Duplicates)



最後のステップでは、入力した情報の一覧が表示されます。この情報が正しいかを確認します。特に重複インポート情報を再確認します。

何件のエラーが検出されたらインポートを停止するかを指定して、インポートをクリックします。これにより重複情報がインポートされます。重複をインポートした新しいデータベースのレコードを見るとインポートした重複の関連はそのままであることが確認できます。

まとめ

- インポート順序の重要さ
- なぜ元のIDを保存するかの理解
- 添付(attachments)や履歴(history)など関連ファイルのインポート
- 親・子関係レコードのインポート
- 障害(defects)レコードのインポート
- 重複(duplicates)レコードのインポート



これで、レコードをインポートする順序が重要であることをご理解いただけたことでしょう。また、このモジュールでは、なぜ元のIDを保存する必要があるかについて説明し、関連レコードのインポートについても順を追って説明しました。

このトピックに関する詳細については、IBM Rational ClearQuest ヘルプを参照ください。

フィードバック

IBM Education Assistant 向上のためのご意見・ご要望をお送りください。
いただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

- このモジュールは参考になりましたでしょうか
- このモジュールによって問題を解決、または疑問にお答えできましたでしょうか
- 改善のためのご意見をお寄せください

以下をクリックしてeメールを送付ください:

[mailto:iea@us.ibm.com?subject=Feedback about RCQ Module1Importing_ja.ppt](mailto:iea@us.ibm.com?subject=Feedback%20about%20RCQ%20Module1Importing_ja.ppt)



IBM Education Assistant の向上のため、お客様のご意見・ご要望をお送りください。いただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

Trademarks, copyrights, and disclaimers

The following terms are trademarks or registered trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both:

ClearQuest IBM Rational

Rational is a trademark of International Business Machines Corporation and Rational Software Corporation in the United States, Other Countries, or both.

Product data has been reviewed for accuracy as of the date of initial publication. Product data is subject to change without notice. This document could include technical inaccuracies or typographical errors. IBM may make improvements or changes in the products or programs described herein at any time without notice. Any statements regarding IBM's future direction and intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only. References in this document to IBM products, programs, or services does not imply that IBM intends to make such products, programs or services available in all countries in which IBM operates or does business. Any reference to an IBM Program Product in this document is not intended to state or imply that only that program product may be used. Any functionally equivalent program, that does not infringe IBM's intellectual property rights, may be used instead.

Information is provided "AS IS" without warranty of any kind. THE INFORMATION PROVIDED IN THIS DOCUMENT IS DISTRIBUTED "AS IS" WITHOUT ANY WARRANTY, EITHER EXPRESS OR IMPLIED. IBM EXPRESSLY DISCLAIMS ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE OR NON-INFRINGEMENT. IBM shall have no responsibility to update this information. IBM products are warranted, if at all, according to the terms and conditions of the agreements (for example, IBM Customer Agreement, Statement of Limited Warranty, International Program License Agreement, etc.) under which they are provided. Information concerning non-IBM products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. IBM has not tested those products in connection with this publication and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-IBM products.

IBM makes no representations or warranties, express or implied, regarding non-IBM products and services.

The provision of the information contained herein is not intended to, and does not, grant any right or license under any IBM patents or copyrights. Inquiries regarding patent or copyright licenses should be made, in writing, to:

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive
Armonk, NY 10504-1785
U.S.A.

Performance is based on measurements and projections using standard IBM benchmarks in a controlled environment. All customer examples described are presented as illustrations of how those customers have used IBM products and the results they may have achieved. The actual throughput or performance that any user will experience will vary depending upon considerations such as the amount of multiprogramming in the user's job stream, the I/O configuration, the storage configuration, and the workload processed. Therefore, no assurance can be given that an individual user will achieve throughput or performance improvements equivalent to the ratios stated here.

© Copyright International Business Machines Corporation 2007. All rights reserved.

Note to U.S. Government Users - Documentation related to restricted rights-Use, duplication or disclosure is subject to restrictions set forth in GSA ADP Schedule Contract and IBM Corp.